

製品名: PRAK ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab16455

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300
分子量	60kDa

抗原情報

遺伝子名	MAPKAPK5 MAPKAPK5; PRAK; MAP kinase-activated protein kinase 5; MAPK-activated protein kinase 5;
別名	MAPKAP kinase 5; MAPKAP-K5; MAPKAPK-5; MK-5; MK5; p38-regulated/activated protein kinase; PRAK
遺伝子 ID	8550.0
SwissProt ID	Q8IW41
免疫原	抗血清はヒト MAPKAPK5 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 148-197

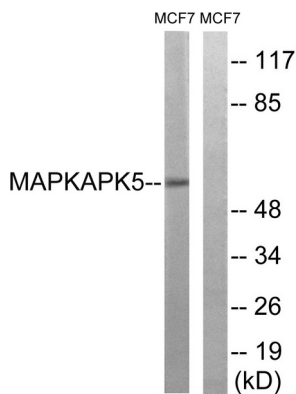
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は腫瘍抑制因子であり、セリン/スレオニンキナーゼファミリーのメンバーです。細胞ストレスや炎症性サイトカインに反応して、このキナーゼは MAP キナーゼ (MAPK1/ERK、MAPK14/p38-alpha、MAPK11/p38-beta) によるリン酸化を介して活性化されます。コードされるタンパク質は核内に存在しますが、リン酸化および活性化されると細胞質に移行します。このキナーゼは、熱ショックタンパク質 HSP27 をその生理学的に関連する部位でリン酸化します。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする 2 つの選択的スプライシング転写バリエーションが報告されています。[RefSeq 提供、2012 年 11 月]、触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。酵素調節: p38 alpha および beta 依存性リン酸化により活性が上昇します。ストレス関連の細胞外刺激によって活性化されます。H₂O₂、亜硫酸塩、アニソマイシン TNF α 、PMA、カルシウムイオンフォア A23187 などにも作用するが、その程度は低い。in vitro において、SQSTM1 によって活性化される。機能: ストレス誘導性の低分子熱ショックタンパク質 27 のリン酸化を媒介する。PTM: 調節リン酸化部位である Thr-182 がリン酸化される。これは T ループ/ループ 12 に位置する。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。CAMK Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。類似性: 1 つのタンパク質キナーゼドメインを含む。細胞内局在: 核内にも存在する。サブユニット: SQSTM1 と相互作用する。組織特異性: 普遍的に発現する。

研究分野

MAPK_ERK_成長;MAPK_G_タンパク質;

画像データ



MAPKAPK5 抗体を用いた MCF-7 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。